



## S-GW セッションのアイドルタイムアウト

- [マニュアルの変更履歴, on page 1](#)
- [機能説明, on page 1](#)
- [セッションアイドルタイムアウトの設定, on page 2](#)

### マニュアルの変更履歴



**Note** リリース 21.24 よりも前に導入された機能については、詳細な改訂履歴は示していません。

改訂の詳細	リリース
初版	21.24 より前

### 機能説明

この章では、S-GWセッションのアイドルタイムアウト処理機能について説明します。ASR5500プラットフォームでは、サブスクライバセッションはコールラインで表されます。S-GW製品のコールラインは、S11/S4のMME/S4-SGSNおよびS5/S8のP-GWを介してピアに接続します。一部のシナリオでは、ピアセッションはそれぞれのピアによって削除されます。S-GWは削除メッセージを受信も除外もしないため、その結果、S-GWセッションはアイドル状態のままになります。このようなアイドル状態のセッションや古いセッションは、リソースを消費して、キャパシティを減らすため、システム内の有効なコールラインにカウントされます。このような場合、S-GWは新しいサブスクライバセッションの取得をトリガーします。その結果、同じサブスクライバの古いセッションが削除されます。アイドルタイムアウト処理のサポートにより、このようなセッションの識別が可能になり、リソースを解放するために削除が開始されます。

次に、S-GWセッションのアイドルタイムアウト処理について説明します。

- サブスクライバのデータトラフィックアクティビティがない場合、サブスクライバセッションはアイドル状態です。セッションマネージャは、コールラインの状態を追跡します。コールラインのデータトラフィックが記録されていない場合、そのようなセッションはアイドル状態に遷移します。
- アイドルタイムアウトと呼ばれる定義されたタイムフレームの間アイドル状態にあるセッションは、アイドルタイムアウト処理の対象と見なされます。アイドルタイムアウトセッションでは、S-GW はピアへのセッションの削除を開始します。
- アイドルタイムアウトは、ネットワーク要件に応じて秒単位で設定されます。タイムアウトの範囲は 1 ~ 4294967295 秒です。
- アイドルタイムアウトの設定は、S-GW サービスレベルで適用され、そのサービスによって処理される一連のサブスクライバのアイドルタイムアウト処理を有効にします。

## セッションアイドルタイムアウトの設定

S-GW セッションのセッションアイドルタイマーは、S-GW サービスから設定できます。

S-GW のセッションアイドルタイムアウトを設定するには、次の設定を使用します。

### configure

```

context context_name
  sgw-service service_name
    [ no | default] timeout idle timeout_duration
  end

```

### 注：

- **timeout idle** *timeout\_duration* : システムがセッションを自動的に終了する前に、セッションがアイドル状態を維持できる最大時間を秒単位で指定します。*timeout\_duration* は 1 ~ 4294967295 の範囲の整数である必要があります。0 を指定すると、この機能が無効になります。デフォルトでは、この機能は S-GW サービスで無効になっています。

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。